

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5040680号  
(P5040680)

(45) 発行日 平成24年10月3日(2012.10.3)

(24) 登録日 平成24年7月20日(2012.7.20)

(51) Int.Cl.

B 6 5 D 5/74 (2006.01)

F I

B 6 5 D 5/74

D

請求項の数 2 (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2008-14811 (P2008-14811)  
 (22) 出願日 平成20年1月25日(2008.1.25)  
 (65) 公開番号 特開2009-173314 (P2009-173314A)  
 (43) 公開日 平成21年8月6日(2009.8.6)  
 審査請求日 平成22年11月9日(2010.11.9)

(73) 特許権者 000002897  
 大日本印刷株式会社  
 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号  
 (74) 代理人 100096600  
 弁理士 土井 育郎  
 (72) 発明者 飯島 淳  
 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号  
 大日本印刷株式会社内

審査官 杉山 健一

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 カートン

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

底面パネルの前後に前面パネルと背面パネルがそれぞれ折線を介して連設され、背面パネルにはその上辺に上面パネルが折線を介して連設され、前面パネルにはその上辺にスライドパネルが破断可能な状態で連設されており、上面外側パネルには取出し用の開口もしくは開口形成部が設けられるとともにその先端には破断可能な把持部分が区画されており、スライドパネルの外側から上面パネルが重ねられ、上面パネルがその把持部分でスライドパネルに貼り合わせられることで胴部が形成され、その胴部の一方を閉じて内容物を投入してから他方が閉じられたことを特徴とするカートン。

【請求項 2】

底面パネルの前後に前面パネルと背面パネルがそれぞれ折線を介して連設され、背面パネルにはその上辺に上面外側パネルが折線を介して連設され、前面パネルにはその上辺にスライドパネルと上面内側パネルがそれぞれ破断可能な状態で順に連設され、その上面内側パネルの先端に接着フラップが折線を介して連設されており、上面外側パネルには取出し用の開口もしくは開口形成部が設けられるとともに、上面内側パネルには上面外側パネルの開口もしくは開口形成部と重なった時に合致する取出し用の開口が設けられ、上面外側パネルの先端には破断可能な把持部分が区画されており、スライドパネルに対し上面内側パネルを内側に折り返した状態で接着フラップが前面パネルの裏面上部に貼り合わせられ、スライドパネルの外側から上面外側パネルが重ねられ、上面外側パネルの把持部分がスライドパネルの上面に貼り合わせられることで胴部が形成され、その胴部の一方を閉じ

10

20

て内容物を投入してから他方が閉じられたことを特徴とするカートン。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、板紙等からなるカートンの技術分野に属し、詳しくは、菓子類を始めとして、各種生活用品などの物品を収納して販売する際に好適に用いられるカートンに関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、菓子類等を入れて販売するための板紙製のカートンとして、サック貼りしたブランクを角筒状に起こし、一方の開口を閉じてからもう一方の開口より内容物を充填して閉じることで箱型とするシールエンド型のものが多く利用されている。このタイプのカートンは、内容物を取り出すための開封機構を有している。例えば、開封部分に帯状のジッパーを設けたものや、胴部を周回する帯状のジッパーを設けたものがある。特に、天面の一部を開けることができ、また再封できるようにするため、側板に設けた摘み部からジッパーの破断を開始して天面を蓋として大きく開封し、閉じる際には摘み部を側板のスリットに係止するようにしたタイプも多く用いられている。

10

【0003】

【特許文献1】特開平8-11869号公報

【特許文献2】特開平9-193926号公報

20

【特許文献3】特開2001-139025号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

上記したカートンのうち、天面の一部を開けるタイプのものは、大きく開けることができ、中身の取出しが容易であるという利点はあるが、蓋を手で持っていないと開封状態を維持することができないため、テーブル等に置いた状態で中身を取り出すということが出来ない。そして、閉じた状態にしても摘み部を側板のスリットに差し込んで止めるだけなので、落下させたりすると蓋が開いて中身がこぼれるという問題がある。また、開封した部分はジッパーのギザギザが残るため、見栄えがよくないという問題もある。

30

【0005】

本発明は、このような問題点に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、開封状態を維持することができ、また蓋を閉じた状態で落下させても中身が溢れるようなことがなく、しかもジッパーの開封による見栄えの悪さをなくしたカートンを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0006】

上記の目的を達成するため、本発明に係る第1のタイプのカートンは、底面パネルの前後に前面パネルと背面パネルがそれぞれ折線を介して連設され、背面パネルにはその上辺に上面パネルが折線を介して連設され、前面パネルにはその上辺にスライドパネルが破断可能な状態で連設されており、上面外側パネルには取出し用の開口もしくは開口形成部が設けられるとともにその先端には破断可能な把持部分が区画されており、スライドパネルの外側から上面パネルが重ねられ、上面パネルがその把持部分でスライドパネルに貼り合わせられることで胴部が形成され、その胴部の一方を閉じて内容物を投入してから他方が閉じられたことを特徴とする。

40

【0007】

この構成からなる第1のタイプのカートンは、上面パネルにおける把持部分とこれに接着したスライドパネルの前面パネル側を摘んで引っ張ると、スライドパネルはその前方側が前面パネルから破断され、上面パネルの下側でスライド可能となり、そのまま引っ張ると上面パネルにある開口が開いた状態となって開封され、その開封状態は維持される。ま

50

た、開封後にスライドパネルを閉じると、そのスライドパネルを引っ張らない限りは開口が開くことがない。

【 0 0 0 8 】

上記の目的を達成するため、本発明に係る第2のタイプのカートンは、底面パネルの前後に前面パネルと背面パネルがそれぞれ折線を介して連設され、背面パネルにはその上辺に上面外側パネルが折線を介して連設され、前面パネルにはその上辺にスライドパネルと上面内側パネルがそれぞれ破断可能な状態で順に連設され、その上面内側パネルの先端に接着フラップが折線を介して連設されており、上面外側パネルには取出し用の開口もしくは開口形成部が設けられるとともに、上面内側パネルには上面外側パネルの開口もしくは開口形成部と重なった時に合致する取出し用の開口が設けられ、上面外側パネルの先端には破断可能な把持部分が区画されており、スライドパネルに対し上面内側パネルを内側に折り返した状態で接着フラップが前面パネルの裏面上部に貼り合わせられ、スライドパネルの外側から上面外側パネルが重ねられ、上面外側パネルの把持部分がスライドパネルの上面に貼り合わせられることで胴部が形成され、その胴部の一方を閉じて内容物を投入してから他方が閉じられたことを特徴とする。

10

【 0 0 0 9 】

この構成からなる第2のタイプのカートンは、上面外側パネルにおける把持部分とこれに接着したスライドパネルの前面パネル側を摘んで引っ張ると、スライドパネルはその後方側が上面内側パネルから破断されるとともに前方側が前面パネルから破断され、上面外側パネルと上面内側パネルの隙間でスライド可能となり、そのまま引っ張ると上面内側パネルにある開口が露出して上面外側パネルの開口と重なった状態となって開封され、その開封状態は維持される。また、開封後にスライドパネルを閉じると、そのスライドパネルを引っ張らない限りは開口が開くことがない。

20

【発明の効果】

【 0 0 1 0 】

本発明のカートンは、スライドパネルを引っ張ることによって上面を大きく開けて開封することができ、スライドパネルは押し込まない限りは元の閉位置に戻らないので、蓋を手で持たなくても開けたままの状態を維持することができる。また、開封後にスライドパネルを閉じると、そのスライドパネルを引っ張らない限りは開口が開かないので、落下させても中身が溢れることがない。また、従来のようなジッパーによる開封手段を設けていないので、開封による見栄えが悪くなるのを防ぐことができる。

30

【発明を実施するための最良の形態】

【 0 0 1 1 】

次に、本発明の実施の形態について図面を参照しながら詳細に説明する。

【 0 0 1 2 】

図1は本発明に係る第1のタイプのカートンの一例を示す斜視図、図2は図1に示すカートンを組み立てるブランクの展開図である。

【 0 0 1 3 】

図2のブランクは、紙器用の板紙を打ち抜いて形成された一枚もので、図示のように、底面パネル1の前後に前面パネル2と背面パネル3がそれぞれ折線を介して連設され、背面パネル3にはその上辺に上面パネル4が折線を介して連設され、前面パネル2にはスライドパネル5がジッパーを介して破断可能な状態で連設されており、上面パネル4には取出し用の開口4aが設けられるとともにその先端には数力所にツナギを有するU字状の切込線aによって破断可能な把持部分4bが区画されている。そして、この把持部分4bと対応して、前面パネル2におけるスライドパネル5側には、ジッパーと対向する短い一本の折線bとその両端からスライドパネル5に向けて延びるツナギのある一対の切込線cとで構成される略矩形形状の押圧部2aが区画されている。また、スライドパネル5の先端は、上面パネル4と合わせたときに開口4aとは重ならない範囲で円弧状に凹んだ形状になっている。なお、上面パネル4の開口4aは、図示の如く始めから開口として開けてあってもよいが、開口形成部としてもよい。すなわち、開口を塞ぐ覆いパネルをツナギで設け

40

50

ておき、開封時にそのツナギを破断して開けるようにしてもよい。

【 0 0 1 4 】

また、底面パネル 1 の左右にそれぞれ折線を介して側面内側パネル 6 が連設され、上面パネル 4 の左右にそれぞれ折線を介して側面外側パネル 7 が連設され、前面パネル 2 の左右にそれぞれ折線を介して折込みフラップ 8 が連設され、背面パネル 3 の左右にそれぞれ折線を介して折込みフラップ 9 が連設されている。さらに、スライドパネル 5 の左右には前面パネル 2 とは反対側に凸部 1 0 a のある狭幅のガイド片 1 0 がそれぞれ折線を介して設けられている。

【 0 0 1 5 】

上面パネル 4 の左右にある側面外側パネル 7 は、箱の高さ（背面パネル 3 の高さ）とほぼ同じになっているが、底面パネル 1 の左右にある側面内側パネル 6 は内側で折り曲げられるために箱の高さより僅かに低くなっており、その前面パネル 2 側の側辺には円弧状の切欠部 6 a が形成されている。

【 0 0 1 6 】

図 2 のブランクを組み立てるには、まずサック貼り状態とする。具体的には、底面パネル 1 に対して前面パネル 2 側を折り返した後、背面パネル 3 に対して上面パネル 4 を折り返して把持部分 4 a をスライドパネル 5 の上面に貼り合わせる。

【 0 0 1 7 】

そして、充填工程において、このサック貼りしたブランクを角筒状に起こし、胴部の一方を閉じて内容物を投入してから他方を閉じることで、図 1 に示すカートンを組み立てる。その閉じる順序は両方とも同じである。すなわち、まず折込みフラップ 8 , 9 を折り曲げてから、それらの上に被さるように側面内側パネル 6 を折り曲げる。次いで、ガイド片 1 0 を折り曲げるようにして側面外側パネル 7 を折り曲げ、折り曲げた側面外側パネル 7 の先端部を側面内側パネル 6 に貼り合わせる。このとき、円弧状の切欠部 6 a のところには折込みフラップ 8 の一部が露出することになるが、側面外側パネル 7 をこの露出した部分にも接着剤 G を付けて貼り合わせる。これにより、前面パネル 2 は折込みフラップ 8 を介してカートンの側面に固定される。なお、組立状態における各構成部分の位置関係を分かりやすくするため、上面パネル 4 とその左右の側面外側パネル 7 を剥がして立てた状態のカートンを図 3 に示してある。

【 0 0 1 8 】

図 1 に示すカートンを開封するには、上面パネル 4 の把持部分 4 a を摘むようにして前面パネル 2 の押圧部 2 a を押し込んで破断する。そして、そのまま把持部分 4 a を引っ張ることで切込線 a のツナギ部分を破断する。これにより、把持部分 4 a はスライドパネル 5 にくっ付いた状態となって上面パネル 4 から独立する。次いで、把持部分 4 をスライドパネル 5 とともに引っ張ると、スライドパネル 5 はその前方側が前面パネル 2 から破断され、上面パネル 4 の下側でスライド可能となる。続いて、そのまま引っ張ると、図 4 に示すように、上面パネル 4 の開口 4 a が開いた状態となって開封される。なお、開封状態における各構成部分の位置関係を分かりやすくするため、上面パネル 4 とその左右の側面外側パネル 7 を剥がして立てた状態のカートンを図 5 に示してある。

【 0 0 1 9 】

図 1 のカートンでは、スライドパネル 5 にガイド片 1 0 を設け、そのガイド片 1 0 に凸部 1 0 a を設けたので、スライドパネル 5 を引っ張ると、その凸部 1 0 a が折込みフラップ 8 と側面外側パネル 7 の接着剤 G のところまでは進むがそれ以上は引き出せない状態となる。また、前面パネル 2 は、これに繋がる折込みフラップ 8 が側面内側パネル 6 の切欠部 6 a のところで側面外側パネル 7 に接着されているので、開封時にスライドパネル 5 が前面パネル 2 から切断されても箱形状が崩れるようなことがない。また、スライドパネル 5 を押し込むと、両サイドのガイド片 1 0 によりスムーズに閉位置までスライドさせることができる。

【 0 0 2 0 】

このように、図 1 のカートンは、スライドパネル 5 を引っ張って開口 4 a を開けると、

10

20

30

40

50

そのまま放置しても開封状態が維持される。また、開封後にスライドパネル 5 を閉じると、そのスライドパネル 5 を引っ張らない限りは開口 4 a は開かないので、落下することがあっても中身が溢れるということがない。

【 0 0 2 1 】

図 6 は本発明に係る第 2 のタイプのカートンの一例を示す斜視図、図 7 は図 6 に示すカートンを組み立てるブランクの展開図である。

【 0 0 2 2 】

図 7 のブランクは、紙器用の板紙を打ち抜いて形成された一枚もので、図示のように、底面パネル 1 1 の前後に前面パネル 1 2 と背面パネル 1 3 がそれぞれ折線を介して連設され、背面パネル 1 3 にはその上辺に上面外側パネル 1 4 が折線を介して連設され、前面パネル 1 2 にはその上辺にスライドパネル 1 5 と上面内側パネル 1 6 がそれぞれ破断可能な状態で順に連設され、その上面内側パネル 1 6 の先端に接着フラップ 1 7 が折線を介して連設されており、上面外側パネル 1 4 と上面内側パネル 1 6 にはそれらが重なった時に合致する取出し用の開口 1 4 a , 1 6 a がそれぞれ設けられ、上面外側パネル 1 4 の先端には数カ所にツナギを有する U 字状の切込線 d によって破断可能な把持部分 1 4 b が区画されている。また、この把持部分 1 4 b と対応して、上面内側パネル 1 6 における接着フラップ 1 7 側には数カ所にツナギを有する U 字状の切込線 e によって押圧部分 1 6 b が区画されている。なお、上面パネル 1 4 の開口 1 4 a は、図示の如く始めから開口として開けてあってもよいが、開口形成部としてもよい。すてわち、開口を塞ぐ覆いパネルをツナギで設けておき、開封時にそのツナギを破断して開けるようにしてもよい。

【 0 0 2 3 】

前面パネル 1 2 とスライドパネル 1 5 の境界は、前面パネル 2 側に円弧状に膨らんだ中央部分の切込線 f とその両側のジッパーとによって破断可能な折線になっており、スライドパネル 1 5 と上面内側パネル 1 6 の境界は、スライドパネル 1 5 側に円弧状に膨らむとともに上面内側パネル 1 6 側に直線的にずれて膨らんだ形状の長いスリット α とその両側のジッパーとによって破断可能な折線になっている。

【 0 0 2 4 】

また、底面パネル 1 1 の左右にそれぞれ折線を介して側面内側パネル 1 8 が連設され、上面外側パネル 1 4 の左右にそれぞれ折線を介して側面外側パネル 1 9 が連設され、前面パネル 1 2 の左右にそれぞれ折線を介して折込みフラップ 2 0 が連設され、背面パネル 1 3 の左右にそれぞれ折線を介して折込みフラップ 2 1 が連設されている。さらに、スライドパネル 1 5 の左右には前面パネル 1 2 とは反対側にそれぞれ折線を介してガイド片 2 2 が突出して設けられており、上面内側パネル 1 6 の左右には中央部分にそれぞれ紡錘形状の長いスリット β が設けられた折線を介して折曲げフラップ 2 3 が連設されている。

【 0 0 2 5 】

上面外側パネル 1 4 の左右にある側面外側パネル 1 9 は、箱の高さ（背面パネル 1 3 の高さ）とほぼ同じになっているが、底面パネル 1 1 の左右にある側面内側パネル 1 8 は箱の高さよりやや低く、前面パネル 1 2 側の一部だけが箱の高さとほぼ同じ高さとなるための凸部 1 8 a を有しており、しかもその前面パネル 1 2 側の側辺には三角状の切欠部 1 8 b が形成されている。また、上面内側パネル 1 6 の左右にある折曲げフラップ 2 3 は、接着フラップ 1 7 側に切欠部 2 3 a が形成されており、この切欠部 2 3 a は、組み立てたときに側面内側パネル 1 8 の凸部 1 8 a が入るサイズになっている。

【 0 0 2 6 】

図 7 のブランクを組み立てるには、まずサック貼り状態とする。具体的には、スライドパネル 1 5 に対し上面内側パネル 1 6 を内側に折り返した状態で接着フラップ 1 7 を前面パネル 1 2 の裏面上部に貼り合わせ、この状態で底面パネル 1 1 に対して前面パネル 1 2 側を折り返した後、背面パネル 1 3 に対して上面外側パネル 1 4 を折り返して把持部分 1 4 a をスライドパネル 1 5 の上面に貼り合わせる。

【 0 0 2 7 】

そして、充填工程において、このサック貼りしたブランクを角筒状に起こし、胴部の一

10

20

30

40

50

方を閉じて内容物を投入してから他方を閉じることで、図 6 に示すカー튼を組み立てる。その閉じる順序は両方とも同じである。すなわち、まず折込みフラップ 20, 21 を折り曲げてから、それらの上に被さるように側面内側パネル 18 を折り曲げる。次いで、折曲げフラップ 23 とガイド片 22 を一緒に折り曲げるようにして側面外側パネル 19 を折り曲げ、折り曲げた側面外側パネル 19 の先端部を側面内側パネル 18 に貼り合わせる。このとき、側面内側パネル 18 の凸部 18a は折曲げフラップ 23 の切欠部 23a のところに収まり、三角状の切欠部 18b のところには折込みフラップ 20 の一部が露出することになるが、側面外側パネル 19 の内面をこの露出した部分にも貼り合わせる。これにより、前面パネル 12 は折込みフラップ 20 を介してカー튼の側面に固定される。なお、組立状態における各構成部分の位置関係を分かりやすくするため、上面外側パネル 14 とその左右の側面外側パネル 19 を剥がして立てた状態のカー튼を図 8 に示してある。

10

#### 【0028】

図 6 に示すカー튼を開封するには、上面外側パネル 14 の把持部分 14a を押圧し、切込線 d のツナギ部分を破断する。このとき、把持部分 14a の真下に位置する押圧部分 16b も切込線 e のツナギ部分を破断され、接着フラップ 17 との境界線で撓むので、把持部分 14a はスライドパネル 15 にくっ付いた状態となって上面外側パネル 14 から独立する。次いで、把持部分 14 の先端が僅かに前面パネル 12 から突き出ているので、この部分を摘んでスライドパネル 15 とともに引っ張ると、スライドパネル 15 はその後方が上面内側パネル 16 から破断されるとともに前方側が前面パネル 12 から破断され、上面外側パネル 14 と上面内側パネル 16 の隙間でスライド可能となる。続いて、そのまま引っ張ると、図 9 に示すように、上面内側パネル 16 にある開口 16a が露出して上面外側パネル 14 の開口 14a と重なった状態となって開封される。なお、開封状態における各構成部分の位置関係を分かりやすくするため、上面外側パネル 14 とその左右の側面外側パネル 19 を剥がして立てた状態のカー튼を図 10 に示してある。

20

#### 【0029】

図 6 のカー튼では、スライドパネル 15 にガイド片 22 を設け、側面内側パネル 18 を低くして前面パネル 12 側に凸部 18a を設けたので、スライドパネル 15 を引っ張るとガイド片 22 が凸部 18a に当たるところまでは進むがそれ以上は引き出せない状態となる。このとき、上面内側パネル 16 の左右にスリット β があるので、ガイド片 22 のあるスライドパネル 15 をスムーズに摺動させることができる。また、前面パネル 12 は側面内側パネル 18 の切欠部 18b のところで側面外側パネル 19 に接着されているので、開封時にスライドパネル 15 が前面パネル 12 から切断されても箱形状が崩れるようなことがない。また、スライドパネル 15 を押し込むと、両サイドのガイド片 22 によりスムーズに閉位置までスライドさせることができる。

30

#### 【0030】

このように、図 6 のカー튼は、スライドパネル 15 を引っ張って開口 14a, 16a を開けると、そのまま放置しても開封状態が維持される。また、開封後にスライドパネル 15 を閉じると、そのスライドパネル 15 を引っ張らない限りは開口 14a, 16a が開かないので、落下するようなことがあっても中身が溢れるということがない。

40

#### 【0031】

以上、本発明の実施の形態について詳細に説明してきたが、本発明によるカー튼は、上記実施の形態に何ら限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲において種々の変更が可能であることは当然のことである。

#### 【図面の簡単な説明】

#### 【0032】

【図 1】本発明に係る第 1 のタイプのカー튼の一例を示す斜視図である。

【図 2】図 1 に示すカー튼を組み立てるブランクの展開図である。

【図 3】組立状態のカー튼における各構成部分の位置関係を分かりやすくするための説明図である。

【図 4】図 1 のカー튼を開封した状態で示す斜視図である。

50

【図 5】開封状態のカートンにおける各構成部分の位置関係を分かりやすくするための説明図である。

【図 6】本発明に係る第 2 のタイプのカートンの一例を示す斜視図である。

【図 7】図 6 に示すカートンを組み立てるブランクの展開図である。

【図 8】組立状態のカートンにおける各構成部分の位置関係を分かりやすくするための説明図である。

【図 9】図 6 のカートンを開封した状態で示す斜視図である。

【図 10】開封状態のカートンにおける各構成部分の位置関係を分かりやすくするための説明図である。

【符号の説明】

10

【 0 0 3 3 】

1 底面パネル

2 前面パネル

2 a 押圧部

3 背面パネル

4 上面パネル

4 a 開口

4 b 把持部分

5 スライドパネル

6 側面内側パネル

20

6 a 切欠部

7 側面外側パネル

8 , 9 折込みフラップ

10 ガイド片

10 a 凸部

11 底面パネル

12 前面パネル

13 背面パネル

14 上面外側パネル

14 a 開口

30

14 b 把持部分

15 スライドパネル

16 上面内側パネル

16 a 開口

16 b 押圧部分

17 接着フラップ

18 側面内側パネル

18 a 凸部

18 b 切欠部

19 側面外側パネル

40

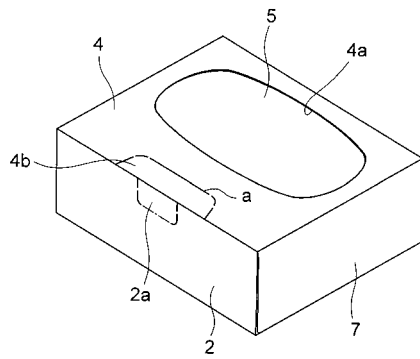
20 , 21 折込みフラップ

22 ガイド片

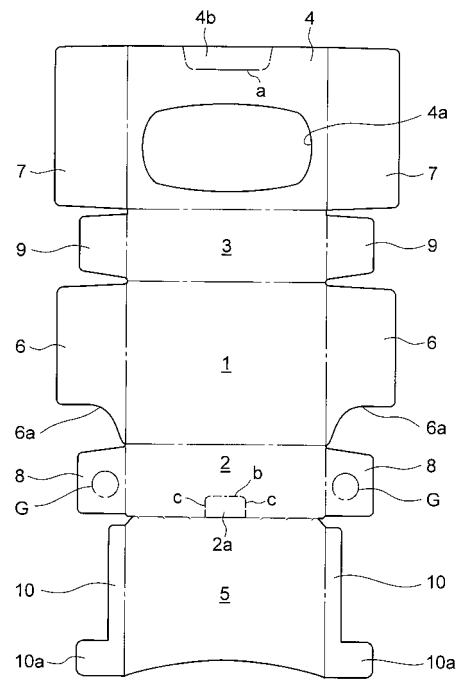
23 折曲げフラップ

23 a 切欠部

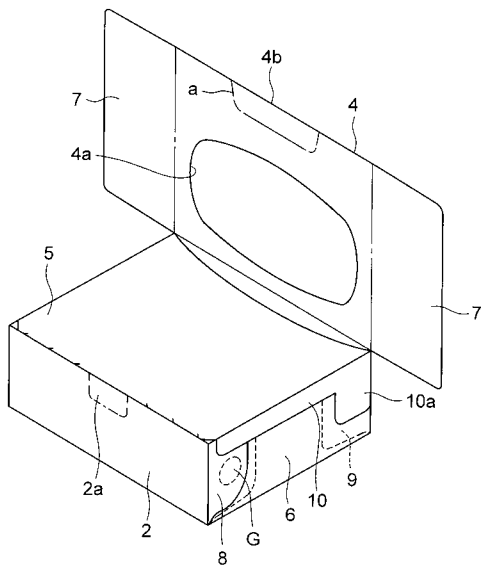
【図 1】



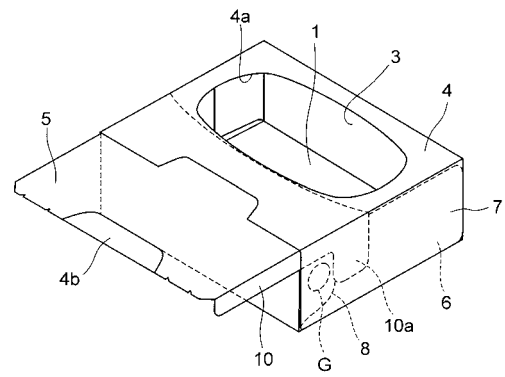
【図 2】



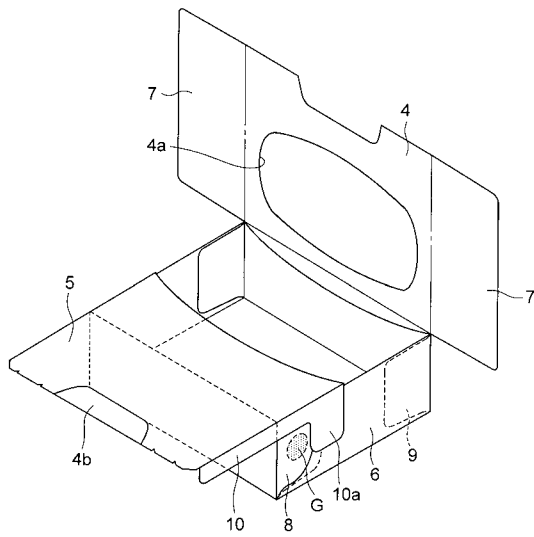
【図 3】



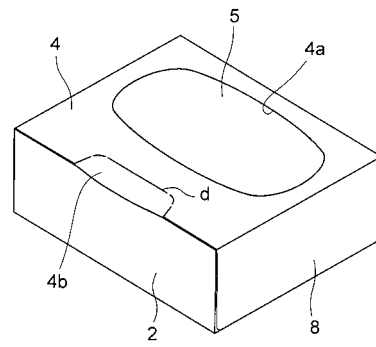
【図 4】



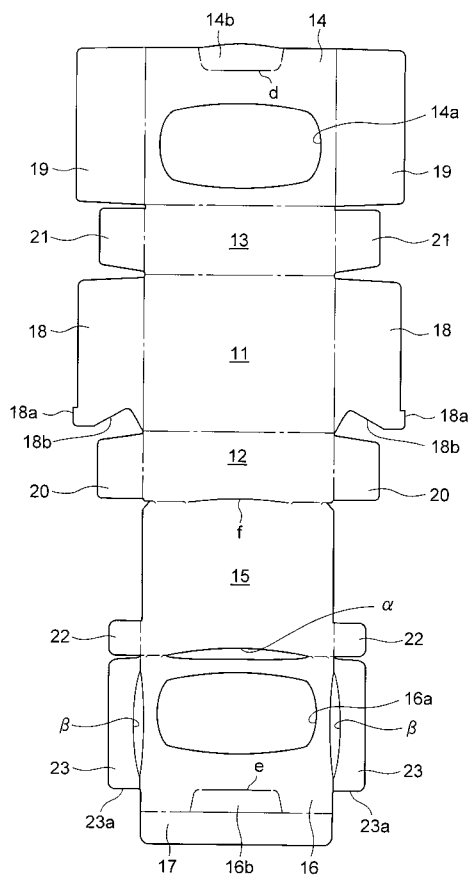
【図 5】



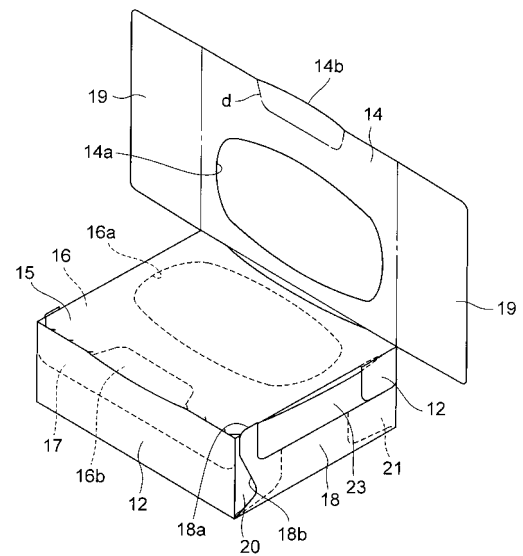
【図 6】



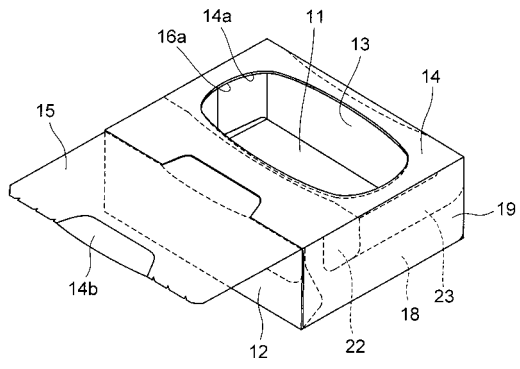
【図 7】



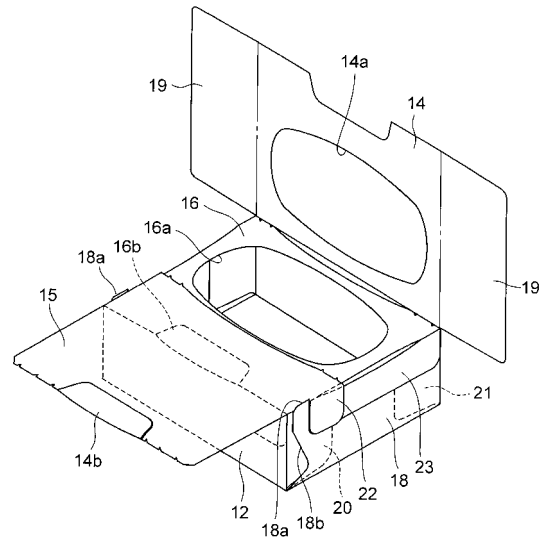
【図 8】



【図 9】



【図 10】



---

フロントページの続き

(56)参考文献 実開昭 6 3 - 1 6 9 4 3 0 ( J P , U )  
実開昭 5 4 - 0 1 3 6 2 6 ( J P , U )  
実開平 1 1 - 2 0 8 6 5 2 ( J P , U )

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)  
B 6 5 D      5 / 0 0 -   5 / 7 6